

令和3年度県民活動推進関連事業の実施結果概要

資料1-2

施策の方向性	行動計画	No	事業名	事業概要	実施目標	結果	担当課
1 県民活動への理解や参加の促進	(1)県民活動の普及啓発の推進	1	千葉県ホームページでの情報発信	県ホームページの特設サイト「千葉県NPO・ボランティア情報ネット」において、NPO法人情報及び県のNPO・ボランティア関連施策情報、民間団体からの助成情報等を掲載する。 また、ボランティア関連情報のページに、各種ボランティアの募集情報や東京オリンピック・パラリンピック関連情報、災害ボランティア関連情報等を掲載する。	「千葉県NPO・ボランティア情報ネット」関連ページビュー数 500,000件	【アクセス件数】(R4年3月末現在) ・県ホームページ(「千葉県NPO・ボランティア情報ネット」関連ページ)ページビュー数:395,639件 【情報発信件数】(R4年3月末現在) ・民間団体等からの助成情報:136件 ・千葉県が募集しているボランティア情報:24件	環境生活部 県民生活・文化課
		2	NPO・ボランティア情報マガジンの配信	NPO・ボランティア活動関連の各種事業やイベントなどの情報を随時配信する。 また、ボランティア活動の参加を促す効果的な情報発信の方法について検討する。	年24回 (月2回)配信	配信回数:30回(R4年3月末現在) 内容:研修会、イベント情報、助成金情報、ボランティア情報等 会員数:2,652名	環境生活部 県民生活・文化課
		3	県民活動情報オフィスの運営	県庁本庁舎2階の「県民活動情報オフィス」において、NPO法人の縦覧及び閲覧、NPO法人の設立時の各種相談、NPO・ボランティア関連情報の提供、会議室の貸出等のサービスを提供する。	オフィス利用者数 1,500名	オフィス利用状況(R4年3月末現在) ・窓口対応:612名 ・電話問合せ等対応:79名 ・会議室利用:309人 ・フリースペース利用:201名 計 1,201名	環境生活部 県民生活・文化課
		4	県民向け市民活動・ボランティア普及啓発	市民活動の基礎知識等を掲載したリーフレットや、各種普及啓発用グッズを様々な機会を捉えて配布し、県民活動の普及啓発をおこなう。	県民活動PR月間や出前説明会等、各種事業でリーフレットや啓発グッズを配布する。	リーフレット配布数:8,540部 グッズ配布数:約33,000点	環境生活部 県民生活・文化課
		5	都市ボランティアの募集・運営	東京2020大会開催時及びその前後の期間において、会場最寄駅や主要駅、空港などで本県を訪れる旅行者等に対して、交通案内や観光案内等の「おもてなし」を行う「都市ボランティア」を募集し、関係市町と連携し運営をする。さらに、東京2020大会に向けた取組を一過性のものとせず、醸成した機運や活動の継続などを県全域に波及させ、大会後のレガシー(持続的効果)として、ボランティア活動の更なる発展につなげることを目指す。	2020大会の開催が不透明な中ではあるが、一人でも多くのボランティアが活動できるよう、オンラインでの取組等を工夫する。	2020大会は無観客開催となり、都市ボランティアの現場活動は全て中止となりましたが、バーチャルツアーやパラ大会選手・関係者等の見送りなどのオンラインによる取組を実施しました。	環境生活部 県民生活・文化課
		6	県民活動PR月間の実施	NPO法施行日である12月1日から1か月間を「ちば県民活動PR月間」とし、当該PR月間を含めた3か月(11月から1月)の間に、自治体や市民活動団体等がこの趣旨に賛同して実施する県民活動の推進に資する取組を「ちば県民活動PR月間 賛同行事」として募集し、各団体と連携・協力して、県内各地域で普及啓発活動を集中的に展開する。	ちば県民活動PR月間賛同行事 20件	○賛同行事 13件 ○啓発物資の配布 ・ボランティアリーフレット:3,650部 ・その他、クリアファイルなどの啓発物資 約1万点 ○広報支援の実施 ・千葉県NPO・ボランティア情報ネット:9件 ・ちばNPO・ボランティア情報マガジン:7件	環境生活部 県民生活・文化課
		7	出前説明会等の実施	NPOやボランティアの基礎知識、県の施策状況などについての説明会を県内各地に赴き、実施する。	開催回数:10回	全8回の開催をしました。(うち2回 オンライン開催)	環境生活部 県民生活・文化課
		8	法人化説明会の実施	NPO法人格の取得を検討している方を対象に、NPO法人制度や設立手続についての説明会を千葉市と共催で月1回開催する。また、うち4回は夜間に開催する。	開催回数:12回	開催回数12回 参加者人数70人 (内訳) ・第1回(4/8):5人 ・第2回(5/13):6人 ・第3回(6/10):3人 ・第4回(7/8):5人 ・第5回(8/12):3人 ・第6回(9/9):4人 ・第7回(10/14):3人 ・第8回(11/11):6人 ・第9回(12/9):10人 ・第10回(1/13):2人 ・第11回(2/10):15人 ・第12回(3/10):8人	環境生活部 県民生活・文化課

施策の方向性	行動計画	No	事業名	事業概要	実施目標	結果	担当課
1 県民活動への理解や参加の促進	(1) 県民活動の普及啓発の推進	9	若い世代の参加促進を図る広報啓発と防犯ボランティア事業	自主防犯活動に意欲のある若い世代(県内の大学等に在籍、又は県内に在住、若しくは在勤する16歳以上30歳未満)により若手防犯ボランティアグループ「ブルー・スターズ」を結成し、自主防犯活動への参加・取組による若年層の防犯意識や規範意識の向上を図るほか、地域における絆の強化を図る。また、若年層等による自主防犯活動の一層の活性化のための広報啓発を実施する。	若い世代の防犯意識や規範意識の向上を図ります。	(防犯キャンペーン及び研修会への「ブルー・スターズ」の参加回数と人数) 延べ6回27人、新規会員32人(R3年度) 【ブルー・スターズ参加のキャンペーン等】 ①性暴力被害防止キャンペーン(4/12浦安市) ②電話de詐欺被害防止キャンペーン(10/16美浜区) ③わんわんパトロール運動推進キャンペーン(11/14・15印西市、3/19・20柏市) ④出動式及び千葉駅キャンペーン(12/17中央区) ⑤新春防犯キャンペーン(1/8東金市)	警察本部 生活安全部 生活安全総務課
		10	自主防犯ボランティア団体の普及及び協働・支援事業	県内で活動する自主防犯ボランティア団体に対して、地域の防犯情報を提供するほか、警察官との合同パトロールを実施する。その他、自主防犯ボランティアの活動の活性化を図るため、県下各署において、自主防犯パトロール隊や町会等を対象に防犯講話や情報交換会を開催する。さらに、自主防犯ボランティアへの参加促進等を図るため、広報啓発活動を実施する。	防犯講話や情報交換を通じて、自主防犯活動団体に対する支援を推進します。	・警察官との合同パトロール 908件 ・防犯講話 2、587件 ・広報啓発キャンペーン 389件 (R3年12月末現在)	警察本部 生活安全部 生活安全総務課
	(2) 県民活動を体験する機会の提供	11	ボランティア活動への参加促進	県全体のボランティア活動の推進を図るため、活動体験等を通じた地域のボランティア活動への参加のきっかけづくりを行う事業を実施する。	2事業の実施	●企画提案による業務委託で実施。 ●採択2団体 ①ちば里山・バイオマス協議会「千葉の里山でおもてなし持続可能社会に向けたボランティア活動」 ・7/18キックオフミーティング(参加者34名) ・8/7竹林セラピーと竹の加工体験(参加者38名) ・9/26竹林整備体験(参加者35名) ・10/24農家ボランティア芋掘り体験(参加者27名) ・11/14竹林整備体験(参加者24名) ・12/18竹林整備体験(参加者51名) ・1/23竹林整備体験(参加者32名) ②特定非営利活動法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ「ちばプロボノチャレンジ2021」 ・支援希望団体の募集(5団体) ・社会人ボランティアの募集(20名)	環境生活部 県民生活・文化課
		12	地域ボランティア活動環境整備	ボランティア活動を希望する方が、意欲を持って地域での活動に取り組めるよう、受入団体のボランティア活動情報を掲載し、閲覧した希望者が参加申込できるマッチングサイトを創設する。 また、ボランティア活動への県民参加を促進するため、活動の魅力を体験できるような体験会を開催するほか、活動の継続・定着を図るため、受入団体に対し体制整備の支援を行う。	体験会の開催:10回 団体支援の実施:8団体	・ボランティアマッチングサイト「ちばボランティアナビ」の開設 ・体験会の開催:6回 このほかコロナによる中止等:7回 ・団体支援の実施:12団体	環境生活部 県民生活・文化課
		13	ボランティアセンター・市民活動支援センター合同研修会の開催	県社会福祉協議会等との連携のもと、市町村ボランティアセンターと市町村の市民活動支援センターのスタッフの研修及び情報共有の場として、研修会・交流会を開催する。	開催回数:2回 参加人数各40名	①7/12令和3年度第1回ボランティアセンター・市民活動支援センター合同研修会 (兼 令和3年度ボランティアコーディネーター研修会【基礎編】) 講師:三宅 琢 氏(新型コロナウイルス感染症神奈川県対策本部技術顧問、ヤフー株式会社 産業保健チーフアドバイザー) 参加者:43名 ②1/21令和3年度第2回ボランティアセンター・市民活動支援センター合同研修会 (兼 令和3年度ボランティアコーディネーター研修会【防災編】) 講師:災害支援ネットワークちば(CVOAD)事務局長 鍋嶋 洋子 氏 オフィス園崎 代表 園崎 秀治 氏 参加者:165名	環境生活部 県民生活・文化課

施策の方向性	行動計画	No	事業名	事業概要	実施目標	結果	担当課
1 県民活動への理解や参加の促進	(2) 県民活動を体験する機会の提供	14	#ちよいボラキャンペーン	都市ボランティアに募集条件等で参加できない児童・生徒等に対して『ちょっとしたことでも「おもてなし(ボランティア)」はできる』ということを実験してもらい、「おもてなしの心」や「共生」などについて肌で感じ、その後の様々なボランティアやその他活動への参加意識を醸成することを目的としている。 本キャンペーンは、児童・生徒の家族や親、友人、学校や各種団体等、多世代の様々な主体が関わることができる仕組みを実施することで、オール千葉でのおもてなしに寄与する。	#ちよいボラ 報告10件	#ちよいボラ 報告19件 ちよいつく(2020おもてなしグッズの作成)約15,000点	環境生活部 県民生活・文化課
		15	都市ボランティア体験プログラムの募集・運営	東京2020大会において、募集条件等から都市ボランティアとして参加できない若い世代である生徒(中高生)などが、都市ボランティアへ参加・体験することで、「おもてなしの心」や「異文化交流」、「共生」について肌で感じ、その後の様々なボランティアやその他活動への参加意識を醸成する。 なお、活動エリアは千葉市・一宮町・成田市・成田空港とする。	事前説明会の実施(5月)活動(7月～8月)	事前説明会をオンラインで5月に実施しました。 また、2020大会は無観客開催となり、現場活動は全て中止となりましたが、案内の練習やパラ大会選手・関係者等の見送りなどのオンラインによる取組を実施しました。	環境生活部 県民生活・文化課
		16	地域と連携した福祉教育の推進	県民の福祉に対する理解と関心を深め、福祉活動への自発的な参加意欲を醸成するため ・小・中・高校を対象に福祉教育推進校を指定 ・福祉教育研究県大会及び福祉教育推進員養成研修を実施する。	・新たな推進校の指定 ・福祉教育研究県大会の開催 ・福祉教育推進員養成研修の実施	・令和3年度指定校 小学校11校、中学校6校、高等学校6校 ・福祉教育研究県大会 参集による開催に代えて動画を作成し配信を行った。 ・福祉教育推進員養成研修 実施日 4月～11月の計5日間、オンラインで実施 修了者数:50名	健康福祉部 健康福祉指導課
		17	ボランティア活動の振興(ボランティア振興事業)	ボランティア等の民間福祉活動の育成発展を図るため、各種ボランティア研修事業等を行う千葉県ボランティア・市民活動センターの運営や研修事業を補助する。	・千葉県ボランティア市民活動センターの運営事業補助 ・研修事業補助(ボランティア・市民活動コーディネーター研修、リーダー研修、新たな担い手育成セミナー)	・ボランティアリーダー研修:5回開催 延べ参加人数179名 ・ボランティアコーディネーター研修 ＜基礎編＞7/12開催 参加人数43名 ＜精神障害編＞ 10/22実施 参加人数48名 ＜災害編＞ 1/21実施 参加人数165名 ・大学生等のボランティア社会貢献活動推進セミナー 2/12実施 参加人数18名	健康福祉部 健康福祉指導課
		18	高校生のためのボランティア体験講座	ボランティア活動に関心のある千葉県内の高等学校に在学している者を対象に様々な分野のボランティアについての講義と演習を実施する。	開催日数:3日(3会場)・1日(1会場)、実習7時間以上、4会場参加数計125名	4会場で各4日実施(1会場は4日を3日に変更)、7月～9月に7時間以上の実習 ・さわやかちば県民プラザ会場延べ232名 ・東金青少年自然の家会場延べ102名 ・水郷小見川青少年自然の家会場延べ51名 ・君津亀山青少年自然の家会場延べ18名	教育庁教育振興部 生涯学習課 (さわやかちば県民プラザ)
		19	体験活動ボランティア活動入門講座	体験活動やボランティア活動を始めたいと思っている方や興味のある方を対象に、体験活動やボランティア活動の基本や身近にできるこれらの活動について学ぶ講座を開催する。	開催回数1回 参加数30名	7月24日、15名 講師:聖徳大学児童学部児童学科 神谷明宏 氏	教育庁教育振興部 生涯学習課 (さわやかちば県民プラザ)
		20	体験活動ボランティア活動実践講座	体験活動やボランティア活動の意義、プログラム企画立案、運営上の留意点などを体験的に学ぶことで、実践的技術の向上を図る。	開催回数1回 参加数30名	8月28日、30名 講師:聖徳大学児童学部児童学科 神谷明宏 氏	教育庁教育振興部 生涯学習課 (さわやかちば県民プラザ)
		21	教育支援実践研究交流会	教育支援を行っているNPOや学校支援団体等を対象に、事例研究や講演、情報交換を通し、資質向上や参加者間のネットワーク構築を図る。	開催回数1回 参加数100名	2月26日、34名 テーマ「地域と学校の協働で子どもの潜在能力を最大限に引き出そう～地域の子どもは地域の希望～」 基調講演講師:茨城県生涯学習・社会教育研究会 長谷川 幸介 氏 事例発表3団体	教育庁教育振興部 生涯学習課 (さわやかちば県民プラザ)
		22	ちば子ども大学	ちば子ども大学事業で実施する講座のうちの1講座で、小学校4年生から中学3年生を対象に、ボランティア活動家からの学びを得た後、「ぶちボラ」で最初の1歩を踏み出すことにより、ボランティアへの意欲向上を図る。	開催日数1日 参加数20名	10月10日、2名 講師:日本財団ボランティアサポートセンター 山本 和樹 氏	教育庁教育振興部 生涯学習課 (さわやかちば県民プラザ)

施策の方向性	行動計画	No	事業名	事業概要	実施目標	結果	担当課
2 地域コミュニティを支える人材づくり	(1)様々な県民活動で活躍する人材づくり	23	ボランティアセンター・市民活動支援センター合同研修会の開催(再掲)	県社会福祉協議会等との連携のもと、市町村ボランティアセンターと市町村の市民活動支援センターのスタッフの研修及び情報共有の場として、研修会・交流会を開催する。	開催回数: 2回 参加人数: 各40名	①7/12令和3年度第1回ボランティアセンター・市民活動支援センター合同研修会 (兼 令和3年度ボランティアコーディネーター研修会【基礎編】) 講師: 三宅 琢 氏(新型コロナウイルス感染症神奈川県対策本部技術顧問、ヤフー株式会社 産業保健チーフアドバイザー) 参加者: 43名 ②1/21令和3年度第2回ボランティアセンター・市民活動支援センター合同研修会 (兼 令和3年度ボランティアコーディネーター研修会【防災編】) 講師: 災害支援ネットワークちば(CVOAD)事務局長 鍋嶋 洋子 氏 オフィス園崎 代表 園崎 秀治 氏 参加者: 165名	環境生活部 県民生活・文化課
		24	災害時外国人サポーター養成講座	災害時における外国人支援として、外国語通訳や避難所での対応の仕方など外国人支援を行うサポーター養成講座を開催する。	3回開催	委託先: (特非)多文化共生マネージャー全国協議会 【結果】 ○第1回(10/30) 会場: 木更津市内(オンライン開催) 参加者: 30名(外国人支援ボランティア) ○第2回(11/4) 会場: 千葉市内(オンライン開催) 参加者: 41名(市町村職員) ○第3回(1/15) 会場: 銚子市内 参加者: 20名(外国人支援ボランティア)、5名(外国人留学生及び引率教員)	総合企画部 国際課
		25	災害対策コーディネーターの養成	地域の防災活動や災害時の支援活動において中心的な役割を担う「災害対策コーディネーター」について、各市町村が開催する災害対策コーディネーター養成講座を修了し、市町村等への名簿の提供に同意した者に修了証を交付する。 なお、市町村が養成講座開催した場合の開催費用は、千葉県地域防災力向上総合支援補助金(補助率1/2、上限500万円)の補助対象となっている。	災害対策コーディネーターの増加	4市町において養成講座を実施し、新たに災害対策コーディネーターとして登録された方を含め、令和4年1月末時点の登録者数が1,597名となり、前年度末と比較し、72名増加しました。 (実施市町村: 市原市、君津市、富津市、栄町)	防災危機管理部 防災政策課
		26	災害対策コーディネータースキルアップ講座	災害対策コーディネーターが、広域的な連携・協力関係を築き、より実践的な防災知識を習得するため、防災研修センター運営事業により災害対策コーディネータースキルアップ講座を開催する。	-	令和4年1月に講座を開催し、24名の方が参加した。	防災危機管理部 防災政策課
		27	コミュニティソーシャルワーカー(CSW)育成事業	地域福祉活動を担う方を対象とする「基礎研修」、社会福祉等に係る個別支援又は相談支援を担う方を対象とする「専門研修」、専門研修の修了者を対象とする「フォローアップ研修」を実施し、地域において活躍する人材の育成・スキルアップを図る。	1 基礎研修 定員150名以上 ※複数回の開催の場合は合計 2 専門研修 定員40名以上 ※複数回の開催の場合は合計 3 フォローアップ研修 定員20名以上 ※複数回の開催の場合は合計	・基礎研修延べ受講者数 179名 ・専門研修修了者数 36名 ・フォローアップ研修受講者数 39名	健康福祉部 健康福祉指導課
		28	千葉県生涯大学校における地域を担う人材の育成	高齢者が地域の様々な問題解決に向け、専門性を身につけ、地域活動の担い手として活躍することができる人材を養成する。	新型コロナウイルス感染症拡大により令和3年度は休校	新型コロナウイルス感染症拡大により令和3年度は休校	健康福祉部 高齢者福祉課

施策の方向性	行動計画	No	事業名	事業概要	実施目標	結果	担当課
2 地域コミュニティを支える人材づくり	(1)様々な県民活動で活躍する人材づくり	29	食生活改善推進員研修事業	地域で活動している食生活改善推進員(以下「推進員」という。)に対し、教育研修を開催し資質の向上を図るとともに、推進員や一般県民を対象とした各種料理教室等を開催することによって県民の食生活の改善を推進する	(1) 地域別研修の開催 11回 (2) 中央研修会の開催 1回150名 (3) 一般財団法人日本食生活協会が実施する研修会等への推進員の派遣 (4) 推進員や一般県民を対象とした各種料理教室等の開催 110回	(1) 地域別研修の開催 9回 (2) 中央研修会の開催 中止 (3) 一般財団法人日本食生活協会が実施する研修会等への推進員の派遣 3回6名(オンライン参加含む) (4) 推進員や一般県民を対象とした各種料理教室等の開催 集合81回、訪問779回	健康福祉部 健康づくり支援課
		30	がん検診推進員育成講習会事業	各市町村の健康づくり推進員、保健推進員及び食生活改善推進員等に対し講習会を行い、がん検診推進員として育成し、これらの人材の協力を得て、各地域でがん検診の声かけ運動等を実施することにより受診率の向上を目指す。	県内を6ブロックに分けて講習会を開催し、がん検診推進員の増員を図る。	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、講習会を主催する保健所の業務負担が増大したことから、業務の優先度を考慮して開催を見送った。	健康福祉部 健康づくり支援課
		31	精神保健福祉ボランティア育成事業	現在活動中の精神保健福祉ボランティア及び心の保健医療通訳ボランティアを対象に、フォローアップ講座や研修会を開催する。(精神保健福祉センターにおいて実施)	精神保健福祉ボランティアのフォローアップ、心の保健医療通訳ボランティアの増員	10/22 精神保健福祉ボランティアフォローアップ講座「心を開いてもらうアプローチの方法～PFAを活用して～」 講師:臨床心理士・公認心理師 原島 あゆみ氏 会場:千葉県社会福祉センター4階第1会議室(ZOOM) 参加者:58名 1/12心の保健医療通訳ボランティア講座 講義「精神科での診察と通訳」 講師:精神保健福祉センターセンター長 林 偉明 講義:「通訳対応時における通訳の役割について」 講師:精神保健福祉センター調査研究課長 水野 和佳子 講義:「通訳ボランティア体験談及び情報交換会」 講師:齋川 桂子氏【中国語(北京語)】 篠原 剛氏【英語】 会場:千葉県教育会館604会議室 参加者:32名	健康福祉部 精神保健福祉センター
		32	ちば食育ボランティアの活動支援	ちば食育ボランティアに対する基礎研修とスキルアップ研修を行う。(ちば食育ボランティア登録者数3,817名※令和3年1月末現在)	・ちば食育ボランティア研修会 年度内2回の開催。参加数50名×2回。	8月 第1回研修会(基礎研修) YouTube「千葉県公式セミナーチャンネル」に研修会の動画を配信し、アンケートを実施。 【内容】 ①講演「オンラインでの食育活動について」 ②講演「楽しく実践！ちばの食育と健康～グー・パー食生活・概要版の活用～」 アンケート回答数58名 2月 第2回研修会(スキルアップ研修会) YouTube「千葉県公式PRチャンネル」で動画を配信し、アンケートを実施。 【内容】 ①子どもたちと収穫体験！ ～ちば食育ボランティアの活動紹介～ ②親子でクッキング アンケート回答数65名	農林水産部 安全農業推進課

施策の方向性	行動計画	No	事業名	事業概要	実施目標	結果	担当課
2 地域コミュニティを支える人材づくり	(1)様々な県民活動で活躍する人材づくり	33	地域とともにある学校づくり推進支援事業	学校と地域が連携して、地域コミュニティを構築し、地域の子供たちを地域で育てていくため、学習支援や環境整備、登下校時の見守りなど、地域と学校が連携・協働して行う活動や学習が遅れがちな中学生等を対象とした原則無料の学習支援など、地域学校協働活動を推進する。そのため、地域学校協働活動推進員や協働活動サポーターを養成する研修会を開催する。	地域学校協働本部がカバーする小中学校の割合を令和2年度より上げる。(政令市・中核市は除く) ※R2実績: 42市町271本部474校(カバー率58.8%)	令和3年度地域学校協働本部がカバーする小中学校の割合(政令市・中核市を除く) 41市町500校(小・中・義・県立含む) カバー率61.6%(500/812)	教育庁 教育振興部 生涯学習課
		34	放課後子供教室推進事業	すべての子供を対象として、放課後や土曜日等に小学校の余裕教室等を活用し、安全に配慮しながら地域住民の参画を得て、交流活動等に取り組むなど、心豊かで健やかな子供の育成を目指す。そのため、コーディネーターや教育活動サポーターを養成する研修会を開催する。	放課後子供教室がカバーする小学校の割合を令和2年度より上げる。(政令市・中核市は除く) ※R2実績: 30市町238教室211校(カバー率47.3%)で実施	放課後子供教室がカバーする小学校の割合が令和2年度より上がった。(政令市・中核市は除く) ※R3実績: 37市町299教室271校(カバー率49.3%)で実施	教育庁 教育振興部 生涯学習課
		35	「読み聞かせボランティア入門講座」の開催	絵本の読み聞かせについての講演及び参加者による実演と講師のアドバイス等を行い、読書の重要性や本の選び方、読み聞かせの方法など、実践に役立つスキルを学ぶ。	開催回数2回、参加者40名	【結果】第1回 5/30 講師:入交静 会場:九十九里町立中央公民館 参加者:9名 【結果】第2回 10/23 講師:小谷孝子 会場:我孫子市生涯学習センター「アビスタ」 参加者:27名	教育庁 教育振興部 生涯学習課 (中央図書館)
(2)東京2020大会を契機とした人材づくりとレガシーの創出		36	都市ボランティアの募集・運営(再掲)	東京2020大会開催時及びその前後の期間において、会場最寄駅や主要駅、空港などで本県を訪れる旅行者等に対して、交通案内や観光案内等の「おもてなし」を行う「都市ボランティア」を募集し、関係市町と連携し運営をする。 さらに、東京2020大会に向けた取組を一過性のものとせず、醸成した機運や活動の継続などを県全域に波及させ、大会後のレガシー(持続的効果)として、ボランティア活動の更なる発展につなげることを目指す。	2020大会の開催が不透明な中ではあるが、一人でも多くのボランティアが活動できるよう、オンラインでの取組等を工夫する。	2020大会は無観客開催となり、都市ボランティアの現場活動は全て中止となりましたが、バーチャルツアーやパラ大会選手・関係者等の見送りなどのオンラインによる取組を実施しました。	環境生活部 県民生活・文化課
		37	#ちよいボラキャンペーン(再掲)	都市ボランティアに募集条件等で参加できない児童・生徒等に対して『ちょっとしたことでも「おもてなし(ボランティア)」はできる』ということを経験してもらい、「おもてなしの心」や「共生」などについて肌で感じ、その後の様々なボランティアやその他活動への参加意識を醸成することを目的としている。 本キャンペーンは、児童・生徒の家族や親、友人、学校や各種団体等、多世代の様々な主体が関わることができる仕組みを実施することで、オール千葉でのおもてなしに寄与する。	#ちよいボラ 報告10件	#ちよいボラ 報告17件 ちよいつく(2020おもてなしグッズの作成)約15,000点	環境生活部 県民生活・文化課
		38	都市ボランティア体験プログラムの募集・運営(再掲)	東京2020大会において、募集条件等から都市ボランティアとして参加できない若い世代である生徒(中高生)などが、都市ボランティアへ参加・体験することで、「おもてなしの心」や「異文化交流」、「共生」について肌で感じ、その後の様々なボランティアやその他活動への参加意識を醸成する。 なお、活動エリアは千葉市・一宮町・成田市・成田空港とする。	・事前説明会の実施(5月) ・活動(7月～8月)	事前説明会をオンラインで5月に実施しました。 また、2020大会は無観客開催となり、現場活動は全て中止となりましたが、案内の練習やパラ大会選手・関係者等の見送りなどのオンラインによる取組を実施しました。	環境生活部 県民生活・文化課

施策の方向性	行動計画	No	事業名	事業概要	実施目標	結果	担当課
3 市民活動団体等の基盤強化等の支援	(1)市民活動団体等の組織運営力等の向上支援	39	市民活動団体マネジメント事業	市民活動団体及びこれから市民活動を始めようとする者の抱える課題の解決や基盤強化に向けて、組織運営力、事業開発力、資金調達力を高めるための講座を、中間支援組織等の企画提案により実施する。	講座満足度80%	<p>受託団体:認定NPO法人 ちば市民活動・市民事業サポートクラブ</p> <p>①ファシリテーター養成講座 みんなが楽しく参加できる話し合いの“コツ” 基礎編 講師:鈴木 まり子 氏(日本ファシリテーション協会フェロー) 講座満足度:91.9%</p> <p>②ファシリテーター養成講座 みんなが楽しく参加できる話し合いの“コツ” 実践編 講師:鈴木 まり子 氏(日本ファシリテーション協会フェロー) 講座満足度:94.1%</p> <p>③寄付募集チラシづくりのコツ 寄付の効果が大きく変わる!寄付募集チラシを120%活用する準備術 講師:林田 全弘 氏(小さなNPOを応援するグラフィックデザイナー) 講座満足度:90.0%</p> <p>④寄付募集チラシづくりのコツ “寄付しようかな”の最後の一步を促す寄付募集チラシづくりのコツ 講師:林田 全弘 氏(小さなNPOを応援するグラフィックデザイナー) 講座満足度:90.0%</p> <p>⑤NPO法人の日常会計処理&決算報告書作成講座 講師:加藤 達郎 氏(税理士) 講座満足度:69.2%</p> <p>⑥NPO法人の労務 講師:石井 敏則 氏(社会保険労務士) 講座満足度:100%</p> <p>※⑤以外、オンライン開催</p>	環境生活部 県民生活・文化課
		40	地域ボランティア活動環境整備(再掲)	ボランティア活動を希望する方が、意欲を持って地域での活動に取り組めるよう、受入団体のボランティア活動情報を掲載し、閲覧した希望者が参加申込できるマッチングサイトを創設する。 また、ボランティア活動への県民参加を促進するため、活動の魅力を体感できるような体験会を開催するほか、活動の継続・定着を図るため、受入団体に対し体制整備の支援を行う。	体験会の開催:10回 団体支援の実施:8団体	<p>・ボランティアマッチングサイト「ちばボランティアナビ」の開設</p> <p>・体験会の開催: 6回 このほかコロナによる中止等:7回</p> <p>・団体支援の実施: 12団体</p>	環境生活部 県民生活・文化課

施策の方向性	行動計画	No	事業名	事業概要	実施目標	結果	担当課
3 市民活動団体等の基盤強化等の支援	(2) 中間支援組織の機能強化支援	41	市民活動支援組織ネットワークによる中間支援組織の機能向上と連携強化	市民活動支援組織の機能向上及び連携強化のため、県内の主要な市民活動支援組織の関係者を構成員とする千葉県市民活動支援組織ネットワークを運営し、支援組織に必要とされるノウハウや知識を習得するための研修を実施する。	ネットワーク会議等の開催回数 4回	○幹事会 第1回 日時:10/14 会場:県民活動情報オフィス 参加者:10名 第2回 日時:1/20 会場:県民活動情報オフィス 参加者:10名 ○ネットワーク会議 第1回 日時:12/22(オンライン開催) 参加者:56名 第2回 日時:2/21(オンライン開催) 参加者:46名	環境生活部 県民生活・文化課
		42	ボランティアセンター・市民活動支援センター合同研修会の開催(再掲)	県社会福祉協議会等との連携のもと、市町村ボランティアセンターと市町村の市民活動支援センターのスタッフの研修及び情報共有の場として、研修会・交流会を開催する。	開催回数:2回 参加人数各40名	①7/12令和3年度第1回ボランティアセンター・市民活動支援センター合同研修会 (兼 令和3年度ボランティアコーディネーター研修会【基礎編】) 講師:三宅 琢 氏(新型コロナウイルス感染症神奈川県対策本部技術顧問、ヤフー株式会社 産業保健チーフアドバイザー) 参加者:43名 ②1/21令和3年度第2回ボランティアセンター・市民活動支援センター合同研修会 (兼 令和3年度ボランティアコーディネーター研修会【防災編】) 講師:災害支援ネットワークちば(CVOAD)事務局長 鍋嶋 洋子 氏 オフィス園崎 代表 園崎 秀治 氏 参加者:165名	環境生活部 県民生活・文化課
	(3) 民が民を支える仕組みの普及・支援	43	民が民を支える仕組みの普及・支援	寄附文化の醸成と市民活動団体の資金調達に係る情報発信を行う。令和元年度に運用を開始した国民の休眠預金等を公益的な民間活動に活用する制度について、HP、メルマガ等で情報発信する。また、実施に当たっては、社会全体で公益を支える仕組みを構築する「民が民を支える仕組み構築モデル事業」(H23~24)を引き継いだ公益財団法人ちばのWA地域づくり基金と連携する。	休眠預金等を公益的な民間活動に活用する制度について、随時、HPやメルマガ等で情報発信する。	休眠預金等活用制度について、公益財団法人ちばのWA地域づくり基金と連携し、メルマガ等での広報を行いました。	環境生活部 県民生活・文化課

施策の方向性	行動計画	No	事業名	事業概要	実施目標	結果	担当課
4 地域の様々な主体と市民活動団体等の連携・協働の促進	(1)地域のコミュニティにおける様々な主体の連携・協働の推進	44	協働によるコミュニティづくりの普及・促進	協働促進についての課題を抱えている地域等を対象に、市町村と地縁団体、市民活動団体、企業等が、協働による取組を検討する契機となるよう、有識者による講演や優良事例の共有等を行う。 また、各地で活動を行っている主体が、地域を越えた連携・協働につながる契機となるような交流会を実施する。	県内6地域で実施	①「定義も、しくみも、進め方もすべて進化して、協働2.0へ」(8/3、参加者114名) ②「誰一人取り残さない地域づくりを目指して」(8/13、参加者41名) ③「自分の地域に合った協働を見つけよう」(10/23、参加者15名、市原市) ④「住民の主体性が地域を動かす」(12/16、参加者19名、富里市) ⑤「協働における行政の役割」(1/14、参加者45名) ⑥「地域の担い手の増やし方」(2/1、参加者35名) ⑦「パートナーシップで課題解決力を高めよう」(2/8、参加者22名) ※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のためオンライン開催を基本としながら一部は会場開催により実施。	環境生活部 県民生活・文化課
		45	ちばコラボ大賞	市民活動団体、地縁団体、社会福祉協議会、学校・大学、企業、行政機関等と連携して、それぞれの特性を活かしながら地域社会の課題解決に取り組んでいる事例の中から、他のモデルとなるような優れた事例に取り組んでいる団体を表彰し、広く県民に周知することにより、連携による地域づくり及び持続可能な社会の実現に資する地域の課題解決に向けたパートナーシップの取組の促進を図る。	応募件数 10件以上(令和2年度6件) 表彰事例 3事例以内(令和2年度3事例)	応募件数:8件 表彰事例:1件	環境生活部 県民生活・文化課
		46	千葉県男女共同参画フェスティバル	本県の男女共同参画社会づくりに向けた機運を高めるため、県民が男女共同参画への理解を深める機会とするとともに、男女共同参画に取り組む民間団体と県民の交流の場を提供する「千葉県男女共同参画フェスティバル」を開催する。 ・企画運営委員会(ボランティア)の設置 ・講演会の開催 ・ワークショップの開催	開催回数1回	千葉県男女共同参画フェスティバル 【結果】 1/22 13時から15時 基調講演「すべての女性が楽しめるスポーツへ」 会場:Zoomウェビナー 1/8、1/9 10時から16時 パネル展「今日はちょっと考える日に！ だんじょきょうどうさんかくとは？」 会場:イオンモール幕張新都心 グランドモール3階 イオンホール 参加者:1,027名	総合企画部 男女共同参画センター
		47	地域福祉フォーラムの設置・活動の促進	地域住民が、社会福祉協議会や民生委員・児童委員、NPO等地域福祉の担い手、更には福祉以外の各分野の人たちと協働して、地域における福祉等のあり方・取組みを考えていく組織である地域福祉フォーラムの設置を促進する。	新規設置数 ・基本 5箇所 ・小域 20箇所	新規設置数 ・基本 0箇所 ・小域 4箇所	健康福祉部 健康福祉指導課
		48	防犯ボックスを核とした地域防犯力・コミュニティ力向上事業	防犯ボックスのさらなる普及に向け、住民に最も身近な市町村が主体となり設置する防犯ボックスの運営費について助成する。また、県が平成27年度までに設置した柏市、船橋市の計2箇所の防犯ボックスについては、県が運営した。	11市町に助成を実施	市町村の要望を伺ったが、新規設置の要望がなかったことから、新たに助成は行っていない。	環境生活部 くらし安全推進課
		49	中小企業総合支援事業費補助金	千葉県内の地域の特性や資源を活用した新商品・新サービス等の開発及び販路開拓、県産農林水産物を使用した新商品・新サービス等の開発及び販路開拓に係る事業に対する助成	地域資源を活用、県産農林水産物を使用して新商品・新サービス等を開発・事業化に取り組む中小企業者等を支援し、地域産業の振興を図る。	【結果】 4/1～4/30 事業の募集(応募6件) 6/7 プレゼン審査(採択5件) 6/9 交付決定 7/1～7/30 2次募集(応募5件) 9月上旬 書面審査(採択2件) 9/13 交付決定	商工労働部 産業振興課

施策の方向性	行動計画	No	事業名	事業概要	実施目標	結果	担当課
4 地域の様々な主体と市民活動団体等の連携・協働の促進	(1)地域コミュニティにおける様々な主体の連携・協働の推進	50	法人の森事業(法人の森協定)	社会貢献や環境活動を希望する企業や団体に対し、県有林の一部を「法人の森」として提供することで、CSR活動としての森林整備活動・森林環境教育活動をサポートする。	事業PR(ホームページ他)協定締結 2件	<ul style="list-style-type: none"> ■事業PR ・10/16-17 エコメッセ2021inちば オンライン開催 11/25-12/17 エコプロ2021 オンライン開催 ・県HPに新規協定候補地掲載 ■協定締結 新規4件 	農林水産部 森林課
		51	里山活動促進事業	景観維持や県土保全等の里山の持つ多面的機能を持続的に発揮するため、地域住民や企業、里山活動団体等の多様な人々の参画による森林整備活動が促進されるよう支援を行う。	里山活動を促進するための講習会を3回開催	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な主体による森林整備活動への参画や協働を支援するための総合窓口を設置し、各種相談対応等を行った。 【結果】総合窓口相談件数 69件 ・里山活動を促進するための講習会を4回開催した。 【結果】日付、内容、参加者数 ①11/6、安全研修会、14名 ②11/20、安全研修会、10名 ③講習会「ちばの里山スクール」、1/28:36名、2/5:10名 ④講習会「ちばの里山ミーティング」2/19:10名、2/20:27名 	農林水産部 森林課
		52	若い世代の参加促進を図る広報啓発と防犯ボランティア事業(再掲)	自主防犯活動に意欲のある若い世代(県内の大学等に在籍、又は県内に在住、若しくは在勤する16歳以上30歳未満)により若手防犯ボランティアグループ「ブルー・スターズ」を結成し、自主防犯活動への参加・取組による若年層の防犯意識や規範意識の向上を図るほか、地域における絆の強化を図る。また、若年層等による自主防犯活動の一層の活性化のための広報啓発を実施する。	若い世代の防犯意識や規範意識の向上を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> (防犯キャンペーン及び研修会への「ブルー・スターズ」の参加回数と人数) 延べ6回27人、新規会員32人(R4年3月末現在) 【ブルー・スターズ参加のキャンペーン等】 ①性暴力被害防止キャンペーン(浦安市) ②電話de詐欺被害防止キャンペーン(美浜区) ③わんわんパトロール運動推進キャンペーン(印西市、柏市) ④出動式及び千葉駅キャンペーン(中央区) ⑤新春防犯キャンペーン(東金市) 	警察本部 生活安全部 生活安全総務課
		53	自主防犯ボランティア団体の普及及び協働・支援事業(再掲)	県内で活動する自主防犯ボランティア団体に対して、地域の防犯情報を提供するほか、警察官との合同パトロールを実施する。その他、自主防犯ボランティアの活動の活性化を図るため、県下各署において、自主防犯パトロール隊や町会等を対象に防犯講話や情報交換会を開催する。さらに、自主防犯ボランティアへの参加促進等を図るため、広報啓発活動を実施する。	防犯講話や情報交換を通じて、自主防犯活動団体に対する支援を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> ・警察官との合同パトロール 908件 ・防犯講話 2、587件 ・広報啓発キャンペーン 389件 (R3年12月末現在) 	警察本部 生活安全部 生活安全総務課
		54	千葉県警察学生サポーター「ChiPSS」活動	非行少年を生まない社会づくりの推進事業の一環として、少年の非行問題に関心があり、熱意と行動力を有する大学生を千葉県警察学生サポーターに委嘱(募集人員40人)し、警察、学校、地域と協働して、学習・スポーツ支援、居場所づくり等の立ち直し支援、街頭補導等の非行防止活動や健全育成活動を実施する。	少年の非行防止や健全育成活動を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> ・「ChiPSS」委嘱状況 35人 ・「ChiPSS」活動状況 延べ46回92人(内訳) 街頭補導活動 18回57人 広報啓発活動 0回0人 学習・スポーツ支援活動 1回1人 居場所づくり支援活動 2回4人 そのほか(研修等) 25回30人 (いずれも令和4年3月末現在) 	警察本部 生活安全部 少年課
		55	少年補導員・少年指導委員活動	少年の非行防止及び健全育成を図るため、少年警察ボランティアを委嘱し、地域住民と協働した街頭補導活動や環境浄化活動等を推進する。	街頭補導活動や環境浄化活動等を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> ・少年補導員兼少年指導委員 491人 ・少年指導委員 94人 ・少年補導員・少年指導委員の活動状況 延べ 662回 (内訳) 街頭補導活動 233回 広報啓発活動 52回 環境浄化活動 1回 その他活動 376回 (いずれも令和4年3月末現在) 	警察本部 生活安全部 少年課

施策の方向性	行動計画	No	事業名	事業概要	実施目標	結果	担当課
4 地域の様々な主体と市民活動団体等の連携・協働の促進	(2)市民活動団体等と県行政・市町村行政の協働の推進	56	市町村と市民活動団体との連携促進事業	各市町村の協働に関する取組や市民活動支援センターの機能強化を支援するとともに必要に応じ専門家の派遣等を行う。	派遣回数6回	専門的知見から助言を求める市町村に対して、専門家の派遣を実施しました。 ①9/11富里市 とみさと協働塾「新たな人を巻き込む活動づくりのコツ」千葉工業大学創造工学部 鎌田 元弘 氏 ②10/12木更津市 若手職員に対する協働によるまちづくり意識醸成の研修 千葉大学大学院社会科学研究院 関谷 昇 氏 ③11/26茂原市 まちびとカフェ特別版 千葉南部災害支援センター 加納 基成 氏 ④3/3市原市 市東地域15町会共創プロジェクト 千葉大学大学院国際学術研究院助教 田島 翔太 氏 ※船橋市、松戸市、野田市、我孫子市、鴨川市、君津市における派遣については、新型コロナウイルス感染症の影響等により中止	環境生活部 県民生活・文化課
		57	学校と市民活動団体との連携促進事業	地域の民間教育力を活用した地域協働の活性化を図るため、教職員向けの講座を実施することにより、NPOと学校が連携するための環境づくりを促進する。	開催回数 1回	11/1県立学校等企画・運営リーダー育成研修 受講者:35名 会場:千葉県総合教育センター 講師: ①「NPO活動と学校との連携」全国体験活動ボランティア活動総合推進センター コーディネーター 大坪 直子 氏(日本ボランティア学習協会常任理事) ②「ノーマライゼーション学校支援事業」NPO法人ちばMDエコネット 山田 晴子 氏	環境生活部 県民生活・文化課
		58	県・市町村推進会議の開催	効果的なNPO・ボランティア施策形成に向けて、県と市町村とが情報交換・意見交換等を行う推進会議等を開催し、県と市町村との一層の連携と協力を促進する。	県・市町村推進会議 2回開催 (内訳:担当課長会議:1回開催、担当者会議:1回開催)	【市町村担当課長会議】 日程:4/25 実施方法:オンライン(zoom) 参加者:市民活動担当課40市町村/防災担当課27市町村 【市町村市民活動担当者会議】 日程:12/24 会場:千葉県文化会館小ホール 参加者:19名(市町村職員数のみ) 内容:ちばコラボ大賞表彰式及び事例発表会	環境生活部 県民生活・文化課
		59	パートナーシップ推進員会議の開催	県庁内における市民活動団体及び市民活動推進施策に対する理解を促進し、協働の体制を強化するため、県行政の関係課職員をパートナーシップ推進員として指定し、推進員会議を通じて理解促進や情報共有を行う。	開催回数2回	【第1回会議】 日程:12/3 実施方法:オンライン 出席者:29名 内容: 講演:これからの協働に何が問われるか (講師:千葉大学大学院、関谷教授) 事例発表:エコメッセちばにおける協働について (循環型社会推進課職員) 【第2回会議】 日程:12/24 場所:千葉県文化会館小ホール 参加者:15名(県町村職員のみ) 内容:ちばコラボ大賞表彰式及び事例発表会	環境生活部 県民生活・文化課